

当案内及び過去に発行した案内は弊社ウェブサイト(<http://www.medience.co.jp/>)よりPDF形式にてダウンロードできます。

新規受託項目のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素より格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、弊社では皆様のご要望にお応えするため、検査の新規拡大に努めておりますが、この度、下記項目の検査受託を開始することとなりました。

取り急ぎご案内致しますので、宜しくご利用の程お願い申し上げます。

敬具

記

新規受託項目

- [27242] リファンピシン (RFP) 耐性遺伝子同定

受託開始日

- 平成30年2月5日 (月)



リファンピシン (RFP) 耐性遺伝子同定

2016年のWHOの統計によると、世界の結核患者数は約1,040万人であり、インドをトップとしてアジアの上位5ヵ国でその55.7%を占めていて、アジアは世界の結核多発地域となっています。日本の結核罹患率は、1960年代の高度成長期以降、急速に減少し、2016年の厚生労働省統計によると対10万人当たり15.4人となっており、アジア諸国と比べると低いものの、欧米先進諸国の数倍といわれています。

近年の結核治療の問題点は、標準的治療薬であるリファンピシン (RFP) 耐性菌が増加していることです。日本では耐性化率は低いものの、近隣アジア諸国では非常に耐性化率が高く、水際対策は行われていますが、結核蔓延地域であるアジアからの訪日外国人が急増していることで、今後の上昇が危惧されており、公衆衛生学的観点からも結核検査の重要性が高まっています。また、RFP耐性の84.2%は複数の薬剤に対する耐性であり、63.2%は多剤耐性 (MDR) であるとの報告があります。このことは、RFP耐性を迅速に同定することが適切な治療を行う上で重要であることを示しています。厚生労働省も薬剤の使用動向調査や、適正使用に向けた行動計画を策定しています。

従来、RFP耐性などの薬剤感受性検査は結核菌の分離培養後さらに数週間を要するため、早期に診断することは困難でした。本検査は結核菌群遺伝子からRFP耐性遺伝子を同定するものであり、他の検査と比較しても迅速な診断が可能となることから適切な薬剤選択、治療期間の短縮、多剤耐性結核患者の早期隔離、二次感染拡大防止に有用な検査と考えられます。

検査要項

項目コード	27242
検査項目名	リファンピシン (RFP) 耐性遺伝子同定* ¹
検体量/保存方法	喀痰 1.0mL / 冷蔵 [容器番号: 55番]
検査方法	リアルタイムPCR
基準値	検出せず
所要日数	2~3日
検査実施料	850点* ² ([D023] 微生物核酸同定・定量検査 [12] 結核菌群リファンピシン耐性遺伝子検出)
判断料	150点 (微生物学的検査判断料)
備考	*1: 必ず遺伝子検査の専用検体としてご提出下さい。 (同一検体で遺伝子検査以外の項目との重複依頼は避けて下さい。) *2: 本検査は、同時に結核菌が検出された場合にのみ算出できます。 本検査を「結核菌群核酸検出 ([D023] 微生物核酸同定・定量検査 [8])」と併せて実施した場合は、主たるもののみ算定できます。 本検査は薬剤耐性結核菌感染が疑われる患者を対象として測定した場合のみ算定できます。

参考文献

阿部千代治: 結核 **76**: 699-706, 2001.

World Health Organization: Global Tuberculosis Report 2016, 21st ed., WHO, Geneva, Switzerland, 2016.

Tuberculosis Research Committee (RYOKEN): Int J Tuberc Lung Dis **19**: 157-162, 2015.